

2014
春号

武蔵野市 市民活動かわら版

発行：武蔵野市市民部市民活動推進課
制作：NPO 法人 モンキーマジック



最新情報はこちらでチェック！
「いいね！」してね！

<http://www.facebook.com/musashinoshiminkatsudou>

2014.3.7fri~8sat 「むさしのNPOアワード」開催！



NPO アワードパネル展示会場の様子

2013.11.17sun「やってみよう！ じぶんごとプロジェクト第3弾」



サービスグラント嵯峨生馬さん・READYFORの田島沙也加さん

市民活動かわら版インタビュー



特定非営利活動法人
ぐーぐーらいぶ
北川史歩子さん



亜細亜大学
一般奉仕会『細流』（せせらぎ）
後藤 忍さん 町田早紀さん



成蹊大学
学生ボランティア本部 Uni
渡辺美咲さん



武蔵野市

もしも、あなたが自分の近所や学校や職場など、武蔵野のどこかが大好きで、「誰かのために何かしたいな」そう思ったら、それが市民活動のはじまりです！

武蔵野で学ぶ人、働く人、暮らす人、子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで。このかわら版では「他人事じゃないや。何かしたいな・・・」のはじまりをお手伝いする情報をお伝えしていきます。

2014 春号 目次

- 「むさしのNPOアワード」開催レポート・・・2～4P
- 市民活動かわら版インタビュー・・・5～7P
- やってみよう！じぶんごとプロジェクト第3弾・・・8～11P
- 1年を振り返って / イベント予定 / 編集後記・・・12P



「むさしのNPOアワード」開催レポート

2014年3月7日（金）・8日（土）の2日間「むさしのNPOアワード」を開催しました！

「むさしのNPOアワード」は、この1年間に『どれだけ「魅力的で」「楽しく」「価値がある」活動をしたか』を市民に知ってもらうイベント。市民の「何かやりたい」という芽を育て、実際の活動につながるような情報発信やきっかけづくりの場を提供しました。また、出展する団体にとっては「人手」「資金調達」「情報発信」という3つの課題を解決する糸口をつかんでもらおうというものでした。

市内17の出展団体が、市民や地元企業など様々な来場者に向けて、団体の活動内容について理解を深めていただき仲間づくりのきっかけとなるようなパネル展示を行い、1年間の活動報告や今後の予定などを発表しました。イベントの締めくくりには、授賞式を行い大変盛り上がりしました。

パネル展示 3月7日（金）@ 武蔵野プレイス3F ワークラウンジ

1日目は、武蔵野プレイス開館と同時に展示作業を開始。工夫を凝らした個性あふれる展示が並び、会場は賑やかな色合いとなりました。オープンスペースであるワークラウンジは、お互いの日々の活動や思いについて語り合う場となりました。



【出展団体】（順不同、敬称略）計17団体

- ・カフェ・フレンズ
- ・むさしの・こどもエコフォーラム
- ・ぐる〜ぽコグ・マ—むさしの認知症予防の会—
- ・NPO法人ワーカーズどんぐり
- ・手話ダンス・交流会ボヌール
- ・NPO法人日本視覚障害ゴルフアーズ協会
- ・むさしの地域猫の会
- ・女声アンサンブル Yellow Sox
- ・NPO法人アクション
- ・NPO法人モンキーマジック
- ・武蔵野市コミュニティ研究連絡会
- ・武蔵野の森を育てる会
- ・武蔵野ブラショフ市民の会
- ・NPO法人ふるさとイベント協議会
- ・ノット・フォー・セール・ジャパン（NFSJ）
- ・コミュニティファーム
- ・NPO法人ぐーぐーらいぶ

興味をひかれたパネルの前で立ち止まる来場者に対し、出展団体は詳しい取り組みや活動における課題などを語ります。共感したり、応援したいと感じた団体のパネルに「いいね！」シールが貼られました。

また、「武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付事業報告会」も同時開催されており、その参加団体もパネル展示にコメントし、お互いの活動を知る機会となりました。

団体と来場者の出会いに加えて、様々な社会的・地域的課題に対し、希望や解決への意欲を持って活動している団体同士の間でもつながりが生まれていました。



パネル展示

3月8日(土) @ 成蹊大学4号館ロビー

2日目は、会場を成蹊大学に移してパネル展示を開催。「多摩コミュニティビジネスシンポジウム 2014」(多摩CBネットワーク・成蹊大学主催)もあったため、多くの人で賑わいました。

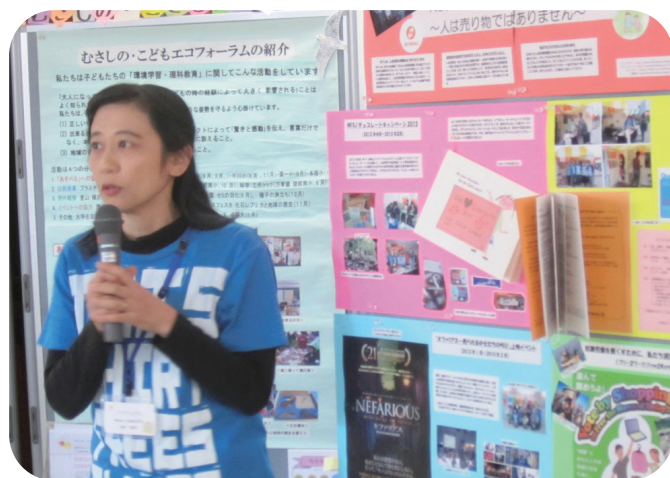


アピールイベント 3月8日(土) @ 成蹊大学4号館ロビー

お昼からは、1団体3分程度で、11団体がプレゼンテーションを実施。日ごろの熱い思いや今後の予定など、市民の方や他団体、地元企業の方に活動をアピールしました。



NPO 法人ふるさとイベント協議会



ノット・フォー・セール・ジャパン (NFSJ)



NPO 法人日本視覚障害ゴルフアーツ協会



むさしの地域猫の会



NPO アワード授賞式 3月8日(土) @ 成蹊大学 学食

2日目の夕方は、多摩コミュニティビジネスシンポジウムの交流会の中で、むさしのNPOアワードの授賞式を実施。5団体に賞が贈られ、代表者がメダルやトロフィーを受け取りました。



ベストNPOアワード 【手話ダンス・交流会ポヌール】 塩田 恭子 さん



授賞理由：「いいね！」シールの数が一番多く、小学校等での活動も魅力的でとても意味のある活動」

「日本手話に興味を持ってくださる福祉関係の学生さんや様々な方と会うことができ、新しい人の繋がりを持つことが出来ました。特に盲聾の通訳者が不足していることなども伝えることが出来ました。出展して本当に良かったです。ありがとうございました！」

写真左 / 受賞トロフィーを受け取った塩田さん

写真右 / ポヌールの活動を手づくりで紹介したパネル



多摩CBネットワーク賞



【コミュニティカフェ カフェ・フレンズ】 竹内 聖 織 さん

授賞理由：「お一人で孤軍奮闘している様子が応援したい」

「色々なジャンルの団体があり、その活動を自分自身も見ることが出来て、楽しかったです。興味を持って話を聞いてくださる方もおり、良い時間を過ごすことが出来ました。」

写真 / 受賞後インタビューに答える竹内さん



【ぐる〜ぷコグ・マ 〜武蔵野認知症予防の会〜】 松田 信 江 さん

授賞理由：「これからとても必要になるテーマだと思う。がんばってほしい！」

「本当にビックリしています！アピールはまだままだと思っていたので選んでいただき、とてもうれしいです。サロンに来てくれる人が『楽しむ』こと自体が認知症予防につながるので、これからも活動していきたいと思っています。」

写真 / 受賞報告を受け、パネルの前で笑顔の松田さん



武蔵野市NPO補助金審査員賞



【武蔵野の森を育てる会】 田 中 純 江 さん

授賞理由：「企業から学生まで幅広い方が参加している。活動を定例的にやっているのがいい！」

「ありがとうございます。賞までいただいて感激です。さらに良い活動を発展させようと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。」

写真 / 受賞式で元気に活動をPRする田中さん



【むさしの地域猫の会】 西村 麻 衣 子 さん

授賞理由：「他ではやっていない活動であるし、『命』にかかわっている」

「限られた資金の中、駅前での募金活動や猫の譲渡会などで試行錯誤しながら活動してきました。これからもいろいろな方法でPRにも力を入れ、みなさんに知ってもらえるきっかけを作っていきたいと思います。」

写真 / 愛らしい猫たちの写真がたくさん貼られたパネル展示



2日間のパネル展示の「いいね！」シールの総数は、595枚！

すべてのパネルに多くのシールが貼られ、各団体を応援する気持ちが出展団体の励みにもなったことでしょう。

市民活動かわら版インタビュー

「必要な人に必要な本を届けたり、
人が繋がる場所づくりをできるこ
とがやりがいとなっています。」



第5回 北川 史歩子（きたがわしほこ）さん

特定非営利活動法人 ゴーゴーらいぶ 事務局長



吉祥寺・カフェゼノンにて

聴き手:「ゴーゴーらいぶ」さんはどのような活動をなさっているのでしょうか？

北川さん: 私たちは、図書館司書を中心としたNPO法人です。現代は情報化社会といわれていますが、情報獲得量の差は生活状況の差へとつながっています。この情報格差の是正のために、誰でも自分に必要な情報を得ることができ、心豊かな生活を送れる手助けをしたいと考えて、図書館や本という観点から活動しています。

図書館は「ヒト（司書）」「ハコ（図書館）」「モノ（本・情報）」で構成されています。司書の育成や資料の構成、サービスの公平性といった「図書館の環境」を整えることで情報格差の是正につながります。また、司書のスキルアップや育成、専門性や地位の向上を図ることで、市民サービスの向上を目指しています。司書という仕事は、専門の資格を持っても雇用が不安定であったり、横の繋がりが薄い職種でもあるのです。このほか、様々な市民の方たちが必要としている情報を届けるため、本に関する講演会やワークショップ、お話し会を定期的に開催しています。子育て世代のニーズは多く、反響も多いですね。そこから、子連れで入れるカフェなどに絵本を設置させていただき活動も始めました（※）。

※今回の撮影にご協力いただいた「カフェゼノン」さんもその一つ。店頭に「おすすめ絵本設置店」のシールが貼ってあります。

聴き手: 活動していて良かったと実感するのはどんな時でしょうか。

北川さん: イベント参加者に喜んでいただけることですね。NPOなので、機動力があり、ハブ（中継）としての役割が担えるので、必要な人に必要な本を届けたり、人

が繋がる場所づくりをできることがやりがいとなっています。

聴き手: 今後はどのような取り組みに力を入れていきたいですか？

北川さん: 現在行っているワークショップやお祭り、「文庫」という本を貸し出す活動を充実させて、子育て世代や高齢者の方を中心に本を届ける取り組みをより一層広げたいと思います。構想としては移動図書館や店舗の軒先を借りたガレージ図書館などがあり、移動図書館ではドリンクの提供を行い、ゆっくり読書を楽しめる雰囲気づくりも考えています。

多くの人が様々な立場で地域を活性化させたいと思っているのですが、図書館や本を通じてその人たち同士の距離を縮められるような活動をしたいですね。

聴き手: 最後に、これから市民活動をしたいと考えている人にメッセージをお願いします。

北川さん: 今、社会や地域の課題を解決するのは行政まかせにするのではなく私たち一人一人が担う時代となっています。誰でも人のためにできることは必ずありますので、社会を良くするための活動や支援などに積極的に関わっていただきたいと思います。私たちの活動にもぜひ気軽に見学にいらしてください。「ゴーゴーらいぶ」はいろいろな人が参加できる場所です。

聴き手: まずは自分のできる一歩を踏み出してみることが大切ですね。貴重なお話を有難うございました。



第三小学校あそべえでのおはなし会の様子

特定非営利活動法人ゴーゴーらいぶ

活動に関するお問合せ、イベントやボランティアの申し込みは、下記ホームページ・フェイスブックをご覧ください。

ホームページ <http://www.goo-goo-libe.jp>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/googoolibe>

市民活動かわら版インタビュー

「ボランティアを通じて、幅広い世代の人と出会うことができ、内面が成長できました！」



第6回 後藤 忍(ごとうしのぶ)さん
町田 早紀(まちださき)さん

亜細亜大学 一般奉仕会『細流』(せせらぎ)

聴き手:『細流(せせらぎ)』の主な活動について教えてください。

後藤さん:私たち『細流』は亜細亜大学の学生サークルで、地域密着型ボランティアとして、武蔵野市を中心に活動をしています。

主な活動としては2つあり、月に1~2回「武蔵野の森を育てる会」(通称:森ボラ)と共に、市内にある「独歩の森」で外来種植物の除去や笹刈りといった森林保全活動と、「しょーとてんぱー」という団体で自閉症の子供たちと遊ぶ活動を行っています。

また、年に一度、亜細亜大学の学園祭でチャリティーバザーを行います。境地域の住民の方から提供していただいた衣類・食器・ぬいぐるみ等を販売し、その売上金をVCM(ボランティアセンター武蔵野)に寄付しています。ここ数年始めた活動では、『細流』が夏合宿を行っている長野県栄村が、2011年に大きな地震に見舞われたことをきっかけに、毎年8月に武蔵境自動車教習所で開催されるサマーフェスティバルで栄村で採れたお野菜を販売し、その売上金を栄村へ寄付する「栄村物産展」という取り組みも行っています。

その他、境地域の夏祭りのお手伝いなど、地域に根付いたさまざまなボランティア活動に取り組んでいます。

聴き手:お二人がボランティアに参加しようと思ったきっかけを教えてください。

後藤さん:私は高校時代、部活や委員会にあまり積極的ではなかったため、高校生活を無駄にしてしまったように感じていました。そこで、大学では勉強以外の活動にもちゃんと参加したいと考えていました。そんな時に町田さんに誘われたので始めてみようと思いました。



細流(せせらぎ)のメンバーの皆さん



後藤さん(左)と町田さん(右) 亜細亜大学構内にて

町田さん:私も先輩から誘われたことがきっかけです。『細流』の食事会に参加した時、会の雰囲気が良いと感じて入りました。その時にはまだ女の子が一人しかいなかったため、寂しかったこともあり、後藤さんともう一人友人を誘いました。勢いもありました(笑)。

聴き手:今まで活動をしてきて良かったと思うのはどのような時ですか？

後藤さん:活動を通じて地域の人と関わることができ、いろいろなお話が聞けたり、「ありがとう」と言ってもらえると、頑張ったかいがあると思えます。学生だけではなく出会いがあり、面白いと感じています。

町田さん:私は今、渉外局長という役職についています。もともととても人見知りだったのですが、色々な人と話していくうちに、人と話すことが楽しくなってきました。幅広い世代の人と関わることによって社会勉強になることも多く、内面も成長できたと思います。今は更に色々なボランティアに参加したいと思っています。

聴き手:今後取り組んでいきたいことはありますか？

後藤さん:武蔵野市でゴミ拾いのボランティアをしたいと考えています。たくさんの人たちにも、『細流』の活動を知ってもらおう活動を積極的に行いたいと考え、今後、高尾山のゴミ拾いを企画し、大学内外のさまざまな団体を招いて、ボランティアの活動を体験してもらいながら、交流の場になればと考えています。

町田さん:今までは活動に誘われることが多かったのですが、これからは自分たちが企画し、誘っていく側になっていきたいと思っています。

聴き手:最後にこの記事を読んでいる方へメッセージをお願いします。

後藤さん・町田さん:ブログやツイッターで、活動報告をしていますので、ぜひ見てください！

亜細亜大学 一般奉仕会『細流』(せせらぎ)

twitter <https://twitter.com/SeseragiAsia>

ブログ <http://ameblo.jp/seseragi43/>

市民活動かわら版インタビュー

「ボランティアは、自分が楽しい
と感じられる活動に参加することが大切です。」



第7回 渡辺美咲（わたなべみさき）さん

成蹊大学 学生ボランティア本部 Uni
国際チーム / 福祉チーム / 渉外局



渡辺美咲さん 成蹊大学構内にて

聴き手:『Uni. (ユニ)』はどのような団体なのでしょうか。

渡辺さん:私たち『Uni』は、2009年に発足し、現在は、国際・環境・地域・教育・福祉の5つのチームに分かれて活動する成蹊大学の学生ボランティア団体です。現在の人数は350名(1～3年生まで)。もともと大学内にはいくつかのボランティアサークルがありましたが、総合的なボランティアを行う場所がありませんでした。それを一つに束ねる形で発足しました。

週に1回、ランチミーティングを行ったり、メーリングリストで活動報告や情報を共有したりしています。

聴き手:具体的にどのような活動に取り組まれているのですか？

渡辺さん:いちばん大きなイベントとして「山手線Walk」があります。山手線一周を皆で歩くのですが、参加費を集めそれを寄付金にします。寄付する先は様々で、東日本大震災や伊豆大島の義援金、赤十字、ユニセフなど、皆で話し合って決定します。

国際チームでは、物資回収として年に1～2回、地域の方から洋服を寄付してもらい、難民センターへ届ける等の取り組みを行っています。また、地域チームは、地域のお祭りや障害者総合センターのお手伝いをはじめ、ボランティアセンター武蔵野からお声がけを頂いての活動も行っています。

教育チームでは、小学校低学年を対象にお菓子作りや昔遊びなど、子どもが楽しめる企画を行っています。

5つのチームがあるので、あらゆる場面で様々な活躍できますし、自分たちで市内のコミュニティセンターなどにイベントのチラシを持ち込んで参加者を募集しています。



国際チームを中心に行われた、世界中の女の子の幸せのための勉強会と啓発活動に参加。

(NGO 団体 プラン・ジャパンの「Because I am a Girl」)

聴き手: 渡辺さんが『Uni』に参加されて良かったと感じることはどのような時でしょうか。

渡辺さん: どのようなことでも始める時は不安ですが、活動を通じて地域の人と交流ができ、その中で「ありがとう」「また来てね」といった言葉を頂けると、とても嬉しいと感じます。

また、福祉チームの活動の一つに「スープの会」というボランティアがあります。新宿の路上生活者の方に味噌汁や食料を届ける活動ですが、はじめはホームレスの方に対する先入観があり、正直不安でした。でも、実際にホームレスの方と交流をしてみると、皆さん「気さくなおじさん」という感じでした。何度も参加し、楽しく話をしていくうちにこちらの顔を覚えてくださって、声をかけてくださるようになりました。ボランティア活動がなければ交流しなかった人と接することで、自分の視点や考え方を変えることができるのは、貴重な体験です。

聴き手: 今後『Uni.』は、どのような取り組みを考えていらっしゃるのでしょうか？

渡辺さん: まだ組織として新しいため、活動の指針や方向性をしっかり定めて、基盤づくりをしている段階です。人数も多い団体なので、活動を充実させる上でも必要なことだと話し合っています。

聴き手: 最後にこの記事を読んでいる方へメッセージをお願いします。

渡辺さん: ボランティアは、強制されてやるものではありません。活動の中で、自分がやりたいと思うことをやる。自分自身が、参加しながら楽しむ気持ちで取り組むことが大切だと思います。まず、思いたったら始めてみれば良いと思います。やってみて合わないな、違うなと思えばやめても構わないのです。

ぜひ、皆さんも興味のある分野から、気軽に取り組んでみてはいかがでしょうか。

成蹊大学 学生ボランティア本部 『Uni.』

twitter https://twitter.com/uni_seikei

ブログ <http://seikeiuni2009.blog.fc2.com/blog-category-1.html>



「想いを育てる・支える仕組みづくり」



商工会館・ゼロワンホールにて



スピーカー：田島沙也加（たじまさやか）さん READYFOR チーフキュレーター

応援したい気持ちをお金というカタチで表し、夢の実現を後押し！

身のまわりの気になっていることを「ひとごと」ではなく「じぶんごと」として考え、形にしてみよう！という「じぶんごとプロジェクト」。第3弾は、夢を叶える新しい資金調達の方法『クラウドファンディング』についてセミナーを行いました。

クラウドファンディングとは？

まずはじめに「クラウドファンディングって何？」ということからお話しします。クラウド（Crowd）は「不特定多数」、ファンディング（Funding）が「資金調達」という意味です。簡単に言えば、インターネットを介して不特定多数の個人から資金（支援金）を集める手法で、新しい資金調達の手段として注目されています。現在、世界中で 500 以上のクラウドファンディングサイトが存在します。

READYFOR でできること

日本ではまだ馴染みがありませんが、国内で初めてこのクラウドファンディングのサイトを私たち READYFOR が立ち上げました。アイデアを実現したい人（夢を叶えようとしている人、という意味で私たちは「実行者」と呼んでいます）に対し、インターネット上でプレゼンテーションを行う場所を提供しています。サイト上では、実行者の提案するプロジェクトが文字や写真で表示され、その目標や熱意に共感が得られると支援につながります。なお、私たちのサイトでは具体的な目標を持ってプレゼンをしてもらうため、実行者に「目標金額」と「プレゼン期間」（募集期間、10～90日）を設定してもらいます。

実行者の目標や熱意に共感してプロジェクトを支援しようとした場合、例えば 3 千円から 10 万円まで設定された引換券を購入することで「支援」をします。期間内に目標金額に到達しないとプロジェクトは不成立となり、それまでに集まったお金も 0 円になる、All or Nothing というルールを設けています。

プロジェクトが成立した場合、引換券の金額に応じて実行者から支援者へオリジナルのお礼の品やお手紙が届くことになります。

やりたいこと、叶えたい夢がある人を応援したい～地域の伝統が消えてしまう現実

さて、次になぜ私がこの READYFOR で働いているかということをお話しします。私は、埼玉県小川町の出身です。ここは、昔から伝統工芸品として和紙を作っている町です。実家は代々和紙問屋だったので、幼い頃から和紙に触れる機会がありました。その一方、和紙作りの職人さんが高齢化し、町から和紙のお店がどんどん消えていく現実がありました。祖父にその理由を尋ねたとき、「時代の流れ。儲からないからだよ。」と言われ、家業も父の代で終わるという衝撃的なことを聞かされました。伝統品を守ろうと思う人がいるにも関わらず現実には消えてなくなってまう状況。私はそれで良いのだろうか？と思いました。そのような中、大学時代に、READYFOR のプレゼンを聞く機会があり、何かをしたいという人に対し、応援したい気持ちをお金というカタチで示し、支えることが出来る仕組みをなんて素晴らしいのだろうと感じました。伝統品や伝統芸能を守っていく新しい手段として、どんどん広めるお手伝いをしたいと思い、今私はここにいるわけです。

キュレーターの仕事

さて、私が担当しているキュレーターとは何か。簡単に言えば実行者の人たちがお金を集めやすいよう、効果的なプレゼンをするお手伝いが主な役割です。日本人というのは、自分の活動や考えをアピールすることを恥ずかしいがることが多いのです。実行者には必ずキュレーターが担当としてつき、ページの書き方、引換券の内容、金額や期日の設定、プロジェクト開始後もそれが達成で

きるようにどう広報したらよいかをアドバイスするなど、二人三脚で応援していきます。

寄付したお金がどう使われているか？

READYFOR では、2011 年 4 月のオープンから約 400 ～ 500 のプロジェクトの資金調達を行い、これまでに 3 万人から約 2 億 6 千万円が支援されています。購入型が特徴で、実行者は資金を受け取る代わりに、支援者が喜びリターンを用意します。

なぜこのモデルをとっているかという、支援者と実行者のつながりを大事にしたいという考えがあるからです。寄付をした後、自分のお金が一括どのように使われているのか、実際応援してみたけれど、それだけで終わってしまうのは寂しいではないか。そんな支援者の気持ちに応え、実行者とコミュニケーションが取れるようにするため、実行者から支援者へお礼の気持ちを伝えられる引換券というシステムをとっています。



例えば、3 千円であれば、お礼状や活動報告書などが一般的です。支援者は寄付の感覚であり、応援したい気持ちが非常に大きいので、とても喜んでくださいます。

1 万円程度の引換券が一番多く支援される傾向にあり、多くは現地の特産品や報告会招待券など、プロジェクトへの参加感を味わってもらえるものが設定されます。支援者は、自分が支援したことでそのプロジェクトが盛り上がったことがわかるものが返ってくると嬉しいのです。さらに 10 万円だととてもユニークな引換券が設定され、現地視察ツアーや新商品開発プロジェクトなどがあります。最近面白かったものは、高校生が海外に旅行して、その様子を写真に収めて皆に報告するプロジェクトで、「3 万円を寄付してくれたら僕と一緒にラーメンを食べられます」というものもありました。

支援者も一緒に応援したくなる仕組み

先ほども少しお話しましたが、READYFOR の特徴として、【All or Nothing 型】をとっています。

期間内に目標金額が集められなければ 0 円になるというルールは、支援者がプロジェクトの達成率のメーターをネット上で毎日チェックできるため、無事達成できるか毎日気になり、応援したくなることを狙っています。自分がいいなと思い応援しているプロジェクトが実現できないかもしれないという危機感を、支援者も共有できるのです。実行する側の身になって、プロジェクトと一緒に広げてもらえるようになります。

なお、達成した場合に私たちが頂く手数料は 17% となっていますが、もし不成立の場合は 0 円。つまり始めるだけならお金がかかりません。失敗した場合にお金がかからないので、気軽に始めていただきたいと思います。

実行者の傾向とカテゴリ

実行者は、NPO 法人・NGO 法人が最も多く約 46%。ただ、特に決まりはもうけていないので、企業、自治体、個人（主婦、学生、サラリーマンなどさまざま）、も立ち上げています。原則、どなたでもプロジェクトを企画できるような仕組みです。

カテゴリとしては、教育、コミュニティづくり、ものづくり、途上国支援、被災地支援などいろいろあります。傾向としては、公共性や社会貢献度の高い活動での支援はお金が集まりやすくなっています。

共感を得るポイントは？

ここで最もお金が集まった事例をご紹介します。“陸前高田市の空っぽの図書館を本でいっぱいにしよう”というプロジェクトです。震災でなくなってしまった岩手県の陸前高田の図書室に本を購入するための資金集めを実施しました。目標金額の 200 万円は 3 日で達成。50 日間で 824 万円を集めました。なぜこれほど集まったかということ、支援者へのお返しが魅力的だったことが挙げられます。

支援金をいただいたお返しとして、支援者に好きな本を 1 冊選んでもらい、その本を図書室に寄贈するという仕組みを作りました。被災地の皆さんに読んでほしい、薦めたい本を寄贈したいという思いが積もり積もった結果でした。本に「この本は、東京都〇〇さんからのプレゼント」と入るので、プロジェクト成立後には、自分が選んだ本を見るために図書館まで足を運んだ支援者もいました。

《プロジェクト実施の流れ》

アイディアの提出→プロジェクト内容の確認→プロジェクトページの推敲→開始・広報→終了

それでは、より多くの方から共感を得るにはどうすれば良いでしょう。3 つポイントがあります。

- 1) プロジェクトの具体性があるか
- 2) リターンの内容が魅力的か
- 3) 実行者の頑張りを見せられるかどうか

放っておけば、自然にお金が集まるかといえばそうではありません。プレゼン公開期間中も、実行者の方には自分が行っていることをメールやフェイスブック、ツイッターなどを活用して広めてもらっています。

私たちは、1 人でも夢を持つ人の手助けをしたいということで、地方でもワークショップを行っています。今日、ここへお話を聴きに來てくださった皆さんも志のある方だと思います。

このようなセミナーを行った後、私のところに「こういったプロジェクトをやりたい！」とお声掛けくださる方がたくさんいらっしゃいます。しかし、そこから一歩踏み出していただけの方は実際には少ないのです。お金というところで本当に困っているのであれば、始めるだけなら 0 円ですし、私たちも、皆さんのお力になりたいという思いで活動しているので、ぜひチャレンジしていただければと思います。

READYFOR サイト <https://readyfor.jp/>

「想いを育てる・支える仕組みづくり」



商工会館・ゼロワンホールにて



スピーカー：嵯峨生馬（さがいくま）さん 特定非営利活動法人サービスグラント 代表理事

企業人のノウハウ・スキルがボランティアに活用できる！

身のまわりの気になっていることを「ひとごと」ではなく「じぶんごと」として考え、形にしてみよう！という「じぶんごとプロジェクト」。第3弾後半は『プロボノ』についてセミナーを行いました。

「プロボノ」とは何か。

まずは、「プロボノ」とは何かということからご紹介します。ラテン語の「Pro Bono Publico」からきているのですが、英語に置き換えると「Pro」は「For」、「Bono」は「Good」、「Publico」が「Public」。つまり、「公共的な良いことのために」という意味です。社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルを生かしたボランティア活動を意味します。職業上身につけたスキルやノウハウは、ボランティアとして、社会的な領域に有効に活用ができるということです。

サービスグラントの取り組みについて

私たち「サービスグラント」は、NPO を応援する NPO です。ボランティアと NPO をつなぐプラットフォームの役割を果たし、中間支援型 NPO とも言われます。

プロボノに参加したい企業人は、平日夜、土日など仕事以外の時間で NPO のプロジェクトに関わります。一般的に NPO は人材不足、資金不足であることが多く、そこにプロボノのニーズがあります。私たちは単に紹介するだけでなく、NPO が活用できる成果を具体的に作っていくプロセスをご一緒することを重要視しています。

まず、プロボノワーカー（プロボノでボランティアする人たち）になりたい人たちには、スキル登録をしてもらいます。ただ、ネット上の登録となると、実在していない場合や本当にそのスキルを持っているかわからない場合もあるため、直接話をして具体的にどんな業務をどれくらい経験しているかなどスキルを確認します。1つのプロジェクトに対しては、5～7人で1つのチームを組みます。NPO に初めて関わる人は仲間がいたほうが安心ということもあるでしょう。プロボノはボランティアの第一歩としても関わりやすいと思います。

ただ、プロジェクトは本当に些細なことでつまづいてしまうこともありますので、そこで私たちは、多少背中を押したり、引っ張ったりしながらその成果生み出すサポートを行っていくわけです。

もう一つ、NPO 向けにオリエンテーションを行います。これが実は重要で、NPO の方たちは、すごい人たちが来てくれると思い込んでしまう場合や、恐縮してしまって、本心が言えなかったりする場合があります。プロボノの本来できる部分と違うレベルで期待をしてしまい、あとでトラブルや後悔が起きてしまうこともあります。

そこで事前に NPO の方々にもプロボノを受け入れるにあたっての心得をお伝えし、それからプロジェクトが始まります。

プロボノの種類について

NPO は、広報や情報発信が苦手な場合が多く、さらにそこにお金と労力がかけられないということから、当初はウェブサイトや印刷物の支援から始めました。しかし現在は、NPO のニーズも多様化してきおり、プログラムは増え、4つの分野で支援をしています。

① 情報発信《ウェブサイト / 印刷物》

NPO は、団体名やブランド名、商品名で勝負ができないうえ、単純に活動内容を紹介することは難しく、つい説明調や文字の多いパンフレットになりがちです。結果、活動を十分に理解してもらえないことになりかねません。ウェブや印刷物で活動内容をわかりやすく伝える情報発信のプロジェクトを行っています。

② ファンドレイジング《営業資料 / 寄付管理》

NPO として資金調達のために企業をまわる際に、企業担当者から必ず聞かれることが、「それでうちのメリットはなんですか？」ということです。会社としてお金を出すからには、メリットがないとなかなか上司にも説明のし

ようがない。そこで、どのような語り方をしたらよいかを一緒に考えていきます。また、客観性、数字や実績が求められるので、社会にどれだけ効果があるかを伝えることも必要です。

また、「認定 NPO 法人」を取得した際に必要となる実務を、効率的かつ確実にできるような仕組みづくりをサポートすることもあります。マニュアル化、効率化などにも一緒に取り組んでいます。

③ 業務改善《プログラム運営マニュアル/業務フロー設計》

NPO の課題として、一部のみに負荷が集中している、ノウハウが属人的で共有されていない、新しい人に仕事を任せられるようにしたいといったことが挙げられます。そこで、ヒアリングに基づく業務分析を行い、業務改善につながる提案、そして、マニュアル作成を行います。

④ 事業戦略《事業計画立案/マーケティング基礎調査》

最近ニーズが多いのが、事業計画立案です。NPO 法ができてもうすぐ 15 年になります。NPO も市民権を得て広がってきていますが、10 年経つと社会の状況も変わっています。これから先、NPO がより多くの成果を社会に生み出すために、中長期的視野に立った目標設定が求められている部分を支援します。その他、NPO の現在の取り組みに関する客観的な調査・分析を通じて今後の活動方針を考えるための基礎調査を行います。

以上のようにわかりやすいプログラムから、さらに進んだ NPO の組織づくりや戦略など、NPO の成熟したニーズに応えられるよう、取り組みを行っています。

現在、プロボノワーカーの登録者数は、約 1,900 人（東京と大阪）、プロジェクト実施件数は、144 件です。年間で 30 数件のサービスグラントのプロジェクトが取り組まれている状況です。

ボランティアに参加するきっかけとしてのプロボノ

過去の調査ですが、ボランティアに参加したい、社会貢献に関心がある人は 60.8%と回答されています。《内閣府「国民生活選好度調査」(平成 20 年度)》しかし、実際に参加したことのある人は、26.2% とずいぶん開きがあるわけです。《内閣府「社会生活基本調査」(平成 18 年度)》関心がありつつも参加していない人たちの理由の第 1 位は「いったんはじめるという加減なことはいらない」というもので、46.9% にのぼります。《文部科学省「ボランティア活動を推進する社会的気運醸成に関する調査研究報告書」(平成 16 年)》

ずいぶん真面目な理由で皆さんボランティアに参加していないのです。

プロボノの場合は社会人が関わりますので、ボランティアの時間は週に 3 ～ 5 時間程度、期間は約 6 か月程度です。そして、チームで取り組むということも特徴です。ある程度自分の時間が計算できることも企業人が参加するにあたって重要ではないかと思います。

プロボノで成果を挙げるために

さて、私たちの取り組みも今では確実に一定の成果をあげていますが、当初は失敗もありました。その頃のエピソードをご紹介します。3 件のプロジェクトのうち、2 件は上手くいきました。しかし、もう 1 件は成果を出すことが出来ませんでした。今思えばさまざまな失敗の要素が凝縮していました。

まず、メンバーの 1 人が急にいなくなりました。音信不通になってしまったのです。しかも、その人がプロジェクトマネージャーだったので困果てました。しかし、チームの 1 人がまとめ役を名乗り出てくれたので、私たちは是非にとお任せしたのですが、これにまた誤算がありました…。

NPO のホームページを作るプロジェクトでしたが、彼は非常にボランティア精神が強く、NPO からの要望に全部応えようとしてしまったのです。気づけばウェブサイトの構想は 300 ページに。目標が膨らみすぎてしまいました。さらに、「ここをやろう」と最初に決めたことを逸脱し、デザイナーであったプロボノワーカーが気になってしまった「ロゴマーク作成」に没頭して 1, 2 か月を費やし、肝心のウェブ制作まで進まなかったのです。

アメリカのあるプロボノの言葉に「プロジェクトの 65%は重大な困難に直面し 50%は成果が出せずに失敗する」というものがあります。私たちは、その点を上手く乗り越えられるような仕組みを作ることが重要と考えています。

そこで「進行ガイド」として初めて参加するプロボノワーカーも安心して取り組めるよう基本ルールや段取りを提示することにしました。また、フェーズといって 3 つの段階に区切って、双方の合意を積み重ねながら成果を出していく。ビジネスライクな進め方ではありますが、これも大事です。ボランティアで行った作業が無駄になってしまうと、モチベーションが大きく低下するのです。

金銭的報酬ではないプレゼント

プロボノのプロジェクトについて、終了後に支援先 NPO へのアンケートを行ったところ、9 割が支援を受けて良かったと回答しています。HP のアクセス数が増えた、寄付やボランティアの申し出が増えた、といった成果があったという声も寄せられました。プロボノワーカーには金銭的報酬はありません。NPO の活動に貢献できたことが大きなプレゼントになります。

また、プロボノワーカーへのアンケートでも、サービスグラントに参加して良かった、また参加したいという回答が 8 割にのぼります。プロボノへの参加による効果・影響については、9 割以上の方が、「自身の視野が広がり、人間的な成長につながった」と回答しています。皆さんそれぞれ自身の仕事はエンジョイされている。さらにプロボノワーカーとして社会と接することで、一層ビジネスパーソンとしての活躍ぶりを高めていけるようです。ぜひ皆さんも興味がありましたら、気軽にご連絡をください。

サービスグラント HP : <http://servicegrant.or.jp/>



これからのイベント予定

1年を振り返って（NPO 法人モンキーマジック代表 小林幸一郎）

昨春より、武蔵野市の市民活動をもっと元気に、楽しく、広がりあるものにと考えて、武蔵野市役所の市民活動推進課とその事業をご一緒にしています。「むさしのNPOアワード」を開催し、みなさまにお届けするこのかわら版で今年度の事業も一区切りです。

どうしたらわが街をよりよくしようと自ら動く人たちを増やすことができるか？…こんなことを考え、武蔵野市に住む人、働く人、学ぶ人、すべての方々に新しい手段なども用いながら情報発信などを行ってきました。うまくいったこと、なかなか思い通りにいかなかったこともあります。来年度ももっと元気なわが街武蔵野市を目指して知恵を絞ってまいりたいと存じます。

もうすぐ長い冬も終わり春が始まります。新しい季節に新しい風を吹かせることができるよう、みなさまこれからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



春の井の頭公園



武 蔵 野 市

武蔵野市市民活動かわら版 2014 年春号

2014 年 3 月 28 日発行

発行

武蔵野市市民部市民活動推進課
〒180-8777

東京都武蔵野市緑町 2-2-28

武蔵野市役所西棟 7 階

Tel 0422-60-1830/Fax 0422-51-2000

npo@city.musashino.lg.jp

<http://www.city.musashino.lg.jp/>

編集・制作

特定非営利活動法人モンキーマジック

〒180-0002

東京都武蔵野市吉祥寺東町 4-11-6

musashino@monkeymagic.or.jp

製作スタッフ

小林幸一郎

野村式栄

松崎優佳

●やってみよう！じぶんごとプロジェクト第 4 弾

『みんなでまちづくり！』ゲームを体験しよう！

日時：2014 年 5 月 23 日（金）19:00～20:30
（受付：18:30～）

定員：40 名

会場：ゼロワンホール

（吉祥寺駅北口より徒歩 5 分 武蔵野商工会館 4 階）

対象：まちづくりに興味のある方、武蔵野市が好きな方、
市民活動に興味のある方

【スピーカー】饗庭 伸（あいば・しん）さん

（首都大学東京 都市環境学部 准教授）

首都大学東京大学院「都市地域研究特論・演習」の授業で開発したカードゲームを体験しながら、まちづくりについて楽しく考えます。

申込方法は、Facebook「武蔵野市市民活動かわら版」・チラシ等にて 4 月上旬にお知らせします。

じぶんごとプロジェクト・むさしのNPOアワードについてのお問い合わせは、

NPO 法人モンキーマジック（musashino@monkeymagic.or.jp）

または武蔵野市市民活動推進課（0422-60-1830）へ

【編集後記】

例年はない大雪や寒さが厳しかった分、春の訪れ、その暖かさが一層嬉しく感じられます。今号では、1 年間の締めくりにふさわしい、「むさしの NPO アワード」のレポートをしました。インタビューでは、はじめて大学生の方々にもお話を伺い、地域の中でしっかりと自分たちの活動の意味を見出し、楽しみながらはつらつと取り組むその姿に大きな刺激を受けました。また、第3弾となった「やってみよう！じぶんごとプロジェクト」は、WEB や人的資源を有効に使ったスピーカーのお話に引き込まれ、「これなら挑戦できそう！」という期待や勇気をもらいました。何事も目的を持って突き進む人の姿は見る者を励まし、考える機会を与えてくれます。そのような人たちとの出会いに心から感謝し、また来年度も新しい市民活動の生きた情報を発信していきたいと思えます。（松崎）

「武蔵野市市民活動かわら版」へのご意見や感想、紹介したい市民活動グループの情報など、お寄せください。

「武蔵野市市民活動かわら版」は、武蔵野市とNPO法人モンキーマジックによる協働で制作しています。